

『現代自由律 100人句集』(自由律句のひろば事業部編集、自由律俳句のひろば発行、2012

年)

“Collected Contemporary Free-form Haiku by 100 Poets”

栗野 賢太郎

Kentaro Awano

1. 自由律句のひろばとは

山頭火以後、自由律俳句は世間に全く認知されず、その存在を忘れられてきた。荻原井泉水の「層雲」河東碧梧桐の「海紅」などの結社はいまだ存在しているが、その活動は結社内のみで、外に出て行く事はほとんどなかった。自由律俳句をもっと身近なものにし、次の世代へ残すため、「群妙」の代表である富永鳩山は、結社の枠を越えた自由律俳人の集まり「自由律句のひろば」を設立した。

2. 『現代自由律 100人句集』

「自由律句のひろば」に所属する俳人の作品をまとめ、現代自由律を多くの人に知って貰うために編まれた句集。

語りはじめそうな石の横
女に出す切手を舐める
笑顔でずかずかやってきて春になる海
雪降るわが手温かくて汚い
売られてゆく牛の瞳なついろ
ひまわり咲ききってこの国の淋しさ
らららたくさんの傘が干してある
風に道をゆずる
あ 句
途方にくれ振り子時計の結論はまだ
にがきおもいをひのこにやくなつ
火をおこして夜をはじめ
あとから逝くよ 線香花火
土塊にも春の影
風ひらり水面が月のうらをみせる

富永鳩山
そねだゆ
中塚唯人
渋谷知宏
湯原幸三
平岡久美子
黒崎溪水
萱沼良行
伊藤清雄
天野博之
松岡月虹舎
平山礼子
那須田康之
田畑 剛
高田弄山